

(2) 主な街路樹の種類と特性

1 高木

表 2-2-1 街路樹の種類と特性 (高木)

種名	樹木形状 タイプ	樹高 (m)	用途				生育特性				観賞 (数字は月を示す)			在来種	その他	
			緑陰・並木		遮へい		成長速度		耐陰性	耐乾性	移植難	花	実			葉
			大	小	高	低	速	遅								
アオギリ		15~	○				○								使用例少 耐公害樹	
アキニレ		10~	○	○				○							耐公害樹 コハシ	
イチヨウ		30~	○				○						9-11 黄		耐公害樹、耐火樹 所沢市の木 落ち葉が滑りやすい	
エンジュ		10~	○				○				7-8 白				強建	
ケヤキ		20~	○				○							○	浅根	
サクラ (ソメイヨシノ)		7~	○				○				○	3-4 淡紅			水はけ要、アカイ ヒトリ、イガ類、 外傷病、斑点病	
スズカケノキ (別名：プラタナス)		15~	○				○								強健、耐公害樹 アカイヒトリ	
トウカエデ		15~	○	○	○		○						9-10 紅・黄		耐公害樹	
トチノキ		15~	○				○				5-6 白			○		
トネリコ		10~	○												耐湿	
フウ (別名：タイワンフウ)		20~	○				○									
モミジバフウ (別名：アメリカフウ)		25~	○				○									
ハナミズキ		5~	○	○				○			4-5 紅・白	9-11 紅	9-11 紅		公害に弱い、 耐火樹、浅根	
ユリノキ		20~	○										9-10 黄		強健、管理容易	
アメリカ ヤマナラシ		25~					○									
クスノキ		20~	○												要管理 耐公害樹	
マテバシイ		15~	○		○										剪定難 耐公害樹	
ヤマモモ		20~	○	○	○										強健 耐公害樹	
タブノキ		20~	○				○		○						耐公害樹	
シラカシ		20~	○	○	○		○		○					○	屋敷林の木 刈込可、耐火樹	

※その他欄の病虫害名は注意が必要なものを示す。

(出典:「道路設計基準 道路編」埼玉県国土整備部)を一部改変

2 中木

表 2-2-2 街路樹の種類と特性（中木）

種名	樹木形状 タイプ	樹高 (m)	用途				生育特性				観賞 (数字は月を示す)			在来種	その他	
			緑陰・並木		遮へい		成長速度		耐陰性	耐乾性	移植難	花	実			葉
			大	小	高	低	速	遅								
サンゴジュ		~8			○	○		○					9-10 赤		X刈込可、 耐公害樹、耐火樹 サゴジウムシ	
キンモクセイ		~6			○		○				9-10 橙				X刈込可、弱公害 性、花に芳香	
ネズミモチ		~5			○	○			○					○	X刈込可 耐公害樹、耐火樹	
モッコク		~10			○	○		○	○						X刈込可 耐公害樹、耐火樹	
ウバメガシ	不整形	~10			○	○		○	○						X刈込可、耐公害樹 外ノ病、斑点病	
ヤブツバキ		~10			○	○		○	○		3 赤			○	X刈込可、耐火樹 フナギ	
サザンカ		~6			○				○		10-3 白・紅				X刈込可、耐公害樹 フナギ	
イヌツゲ		~5			○				◎	○					X刈込可	
ヒイギモクセイ		~6			○										X刈込可 耐公害樹	
シャリンバイ		~3			○				○	○					耐公害樹	

※その他欄の病虫害名は注意が必要なものを示す。

(出典:「道路設計基準 道路編」埼玉県県土整備部)を一部改変

3 低木

表 2-2-3 街路樹の種類と特性（低木）

種名	用途		生育特性				観賞 (数字は月を示す)			在来種	その他	
	寄植え	刈込み	成長速度		耐陰性	耐乾性	移植難	花	実			葉
			高	低								
サツキ	○	○						5-6 紅				
ククルマツツジ	○	○						4-5 紅				
アベリア	○	○	○		○	○		6-10 白				強健 斑点病
カンツバキ	○	○		○	○			11-2 紅				耐火樹 フナギ
トベラ	○	○	○		○	○						
マメツゲ	○	○		○	○							
ジンチョウゲ	○	○			○		○	3-4 紅紫				耐公害樹
オオムラサキツツジ	○	○	○					5 紅				強健、耐公害樹
リュウキュウツツジ	○	○						5 白				
ヒラドツツジ	○	○	○					4-5 紅・白				花色多い
ドウダンツツジ	○	○						4-5 白		9-10 紅葉		

※その他欄の病虫害名は注意が必要なものを示す。

(出典:「道路設計基準 道路編」埼玉県県土整備部)を一部改変

2) 維持管理

(1) 維持管理の方針

1 維持管理の重要性

道路や交通広場などで植栽された樹木は、限られた空間や制約が多い環境のなかで生育していかなければなりません。このような条件のもと、将来の樹形を勘案して、良好な街路樹の維持・育成を図ります。

そのためには、適切な樹木の管理を通じ、安全かつ快適で、みどり豊かな景観を形成するため、さらには地域や沿道の住民などと調和を図りながら、計画的な維持管理を行います。

2 維持管理の考え方

ア. 管理上の制約条件

街路空間の維持管理では、道路構造令^{*}による建築限界^{*}や周辺施設など様々な条件があります。また、地下部においても、狭所な植栽基盤、埋設管などの占用物があり、埋設物の工事では樹木の根が切断されることもあります。

このような制約条件のなかで、街路樹の適切な育成と維持管理が求められます。

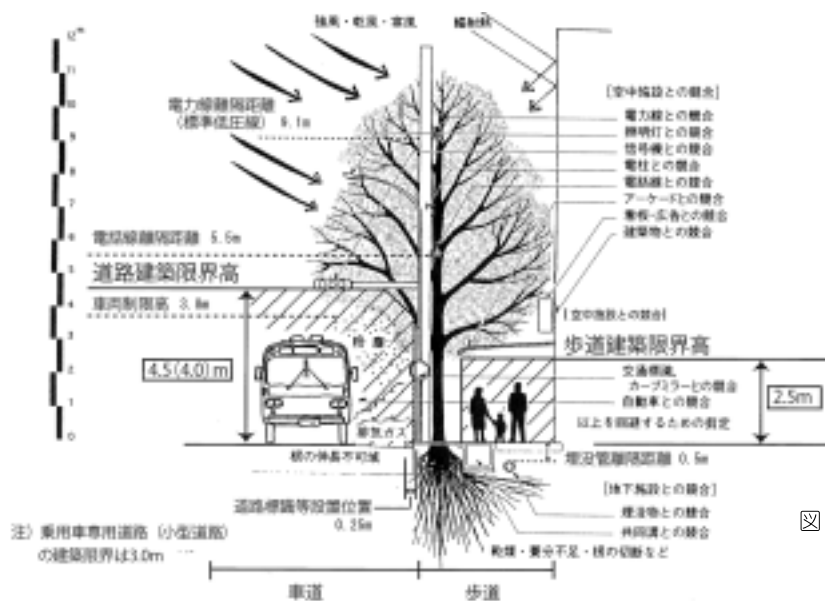


図 2-2-1 街路樹と占用物や建築限界
(出典:「街路樹剪定ハンドブック」
(社)日本造園施設業協会)

イ. 地域や沿道の住民との関わり

維持管理作業における剪定、病虫害の防除、街路樹の補植・植え替えなどは、沿道の住民に影響を及ぼすこともあるため、常に地域や沿道住民の理解や協力を得ておくことが必要です。

住民からは、樹木につく害虫、落ち葉や落枝、常緑樹を植栽することによる日照不足などの様々な意見も寄せられます。日常の維持管理や街路樹の補植・植え替えなどでは、地域や沿道の住民と調和を図りながら進めます。

(2) 街路樹の維持管理

街路樹の管理は、植栽の目的や機能を十分に発揮できるように、樹木の形態上、生理上の各機能の保護、育成及び維持を図ります。樹木の主な管理作業は、剪定、生け垣や低木の刈り込み、病虫害対策、施肥、落ち葉清掃、支柱の補修、さらには、樹木医などによる街路樹診断などがあります。老齢化や衰退した樹木は、事故を防止する目的から、街路樹診断などの結果に基づいて伐採します。

1 剪定

ア. 剪定の目的

街路樹は、地上・地下部とも厳しい環境のなかで生育しています。地下に十分な根を張ることができない樹木は、樹木の根の広がりや地上部の枝葉の広がりバランスを図るうえで、樹形を適切に維持管理します。

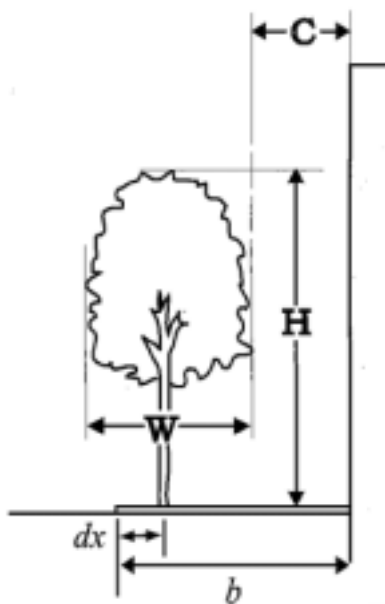
また、街路樹は、街並みの景観を形成することから、地域要望や周辺の状況を踏まえて適切な育成・維持管理を行います。

イ. 剪定の要点

樹高と樹冠を維持するためには、適切な頻度と時期の剪定が重要です。

街路樹の維持管理にあたっては、様々な環境のもと管理目標の樹形を想定して実施します。

また、管理目標とする最大樹高の目安は、下図のように樹種の特性による「望ましい樹高・枝張り比」と「伸長可能な枝張り」から求めることができます。



樹形タイプ区分	f : 望ましい樹高・枝張り比(目安)
円錐型	0.3~0.4
卵円型	0.4~0.7
球型	0.5~0.7
盃型	0.5~0.7 1.0~(ソメイヨシノ)
枝垂れ型	0.7

■伸長可能な枝張り

$$W = (b - dx - C) \times 2$$

■望ましい樹高・枝張り比から求められる樹高

$$H = W \div f$$

W : 伸長可能な枝張り (Width)

H : 望ましい樹高・枝張り比から求められる樹高 (Height)

C : 樹冠と建築物に必要な空間 (Clearance)

dx : 幹と歩車道境界の間隔 (distance x)

f : 望ましい樹高・枝張り比 (fraction)

図 2-2-2 樹形タイプにおける望ましい樹高・枝張り比 (W/H)

(出典:「街路樹剪定ハンドブック」(社)日本造園施設業協会)

ウ. 樹木の生育段階に応じた剪定

(ア) 植栽時の剪定

植え付け後の剪定は、ふところ枝、平行枝、徒長枝、立枝、さかさ枝などを切除し、枝葉を透かしながら樹冠を整える軽剪定を行います。

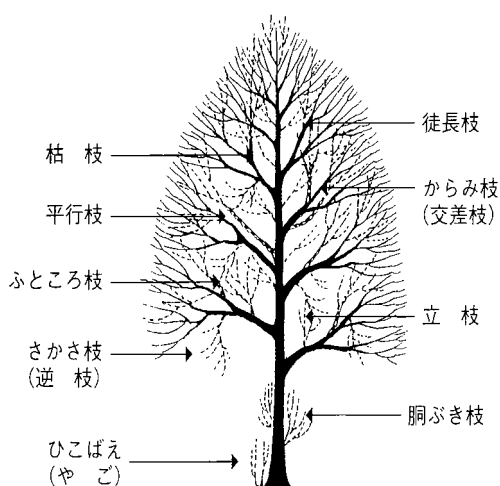
(イ) 育成管理期の剪定

将来の管理目標の骨格となる主枝と副枝を決めながら、弱い剪定により樹種の特徴を活かした樹形に誘導することを主体に行います。

(ウ) 樹形維持期の剪定

剪定の対象となる枝は、枯枝、病気の枝、折損枝、ひこばえなどです。管理目標樹形として樹冠を維持又は一時的に樹冠を縮小させる目的で行います。

また、切返し剪定は、できる限りもとの樹形を崩さないように、強く伸びた枝をその下部にある小枝の上部から切除し、枝の「切り替え」を行います。



徒長枝: 本年生枝、前年生枝の中で、他の普通の枝より異常に長く伸びる枝で、組織が軟弱なものが多い

からみ枝(交差枝): 他の枝に絡みついたような形になっている枝

立枝: 幹に平行して立ち上がっている枝

胴ぶき枝: 樹木の衰弱が原因で、幹から発生した小枝

枯枝: 枯死した枝

平行枝: 同じ方向に伸びる上下に平行した枝

ふところ枝: 副主枝よりも内側にある弱小な枝

さかさ枝(逆枝): 外側に伸びる性質に逆らい、枝の下や内側に向かって伸びる枝

ひこばえ(やご): 根元または地中にある根元に近い根から発生する小枝

図 2-2-3 剪定対象となる枝

(出典:「街路樹剪定ハンドブック」(社)日本造園施設業協会)

エ. 剪定の種類

剪定は、基本剪定(整枝剪定)と軽剪定(整姿剪定)があります。

基本剪定は、樹形を残しつつ、樹木の基本骨格を整えるため、冬期の落葉広葉樹高木の剪定や枝抜き剪定を行います。

軽剪定は、樹冠を整えたり、枝葉が込むことで風通しが悪くなることによる病虫害の発生を防止したり、枝枯れ・衰退を防いだりするために実施します。また、夏期における落葉広葉樹の高木や中低木の剪定は、台風による倒木や湯水期の枝葉からの水分蒸発量を抑える効果があります。

オ. 剪定の時期

樹種によって剪定の時期が異なります。一般的な剪定適期は以下の通りです。

- 針葉樹・・・真冬を避けた10～11月頃と春先
- 常緑広葉樹・・・成長が休止する5～6月、9～10月
- 落葉広葉樹・・・葉が固まる7～8月、落葉した11～3月

花木については、花芽の関係から、以下に整理します。

表2-2-4 花芽の形態による剪定の適期

花芽の形態	剪定の適期	主な樹木
春に芽が伸びて花芽をつけ、その年に開花するもの	秋から翌春の萌芽前まで	サルスベリ、ハナミズキ、サクラ類等
春に開花しその後萌出する新枝に花芽を分化・形成するもの	花の終わった直後	コブシ、トチノキ、ツバキ類等

カ. 剪定の技法

剪定には、枝抜き、切返し、切詰めなどの方法があり、それぞれに適切な剪定を実施します。

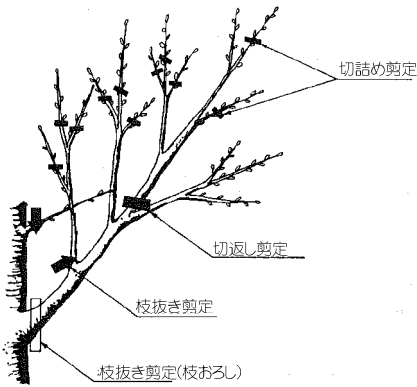


図2-2-4 剪定の技法

(出典:「道路緑化基準・同解説書」日本道路協会)

【枝抜き】

支障となる枝や、除去すべき不要な枝を付け根から切り取る。

【切返し】

枝の分岐点において長い方の枝を付け根から切り取る。樹冠を小さくする場合に行う。

【切詰め】

主として当年枝を葉目の上の位置で切り落とす。枝として伸びていく定芽の方向を選ぶことにより、樹形を作っていく意味と、樹冠を小さくする場合に行う。

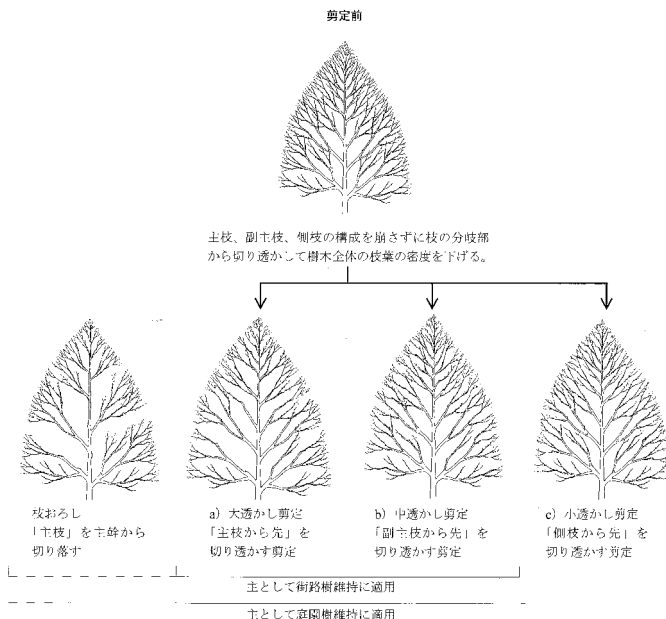


図2-2-5 枝抜き剪定

(出典:「街路樹剪定ハンドブック」(社)日本造園施設業協会)